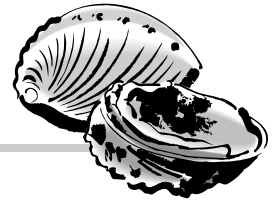




# 佐渡海洋深層水

SADO DEEP SEA WATER

## その8 佐渡の海にクロアワビを！



先月号では、イベントでの海洋深層水の体験コーナー等についてご紹介しました。今回は、深層水を利用したクロアワビの種苗生産についてご紹介します。

### ◇クロアワビ種苗生産

佐渡では、作り育てる漁業の推進として、エゾアワビの種苗放流を行っています。漁業者からは、市場価格の高い地場産のクロアワビを種苗放流して欲しいとの要望がありましたが、クロアワビは表層水で飼育した場合、病気にかかりやすく種苗生産が困難と考えられてきました。

そこで、清浄性が高く、栄養性に富んだ佐渡海洋深層水を利用することで、これまで困難であったクロアワビの種苗を安定的に生産することが可能となります。

佐渡周辺海域のアワビ資源の回復を図り、「アワビ漁業」の振興発展を目指します。

深層水を利用した  
クロアワビの種苗生産は  
全国でも初の試みとなります

### ■種苗生産とは？

水産で「種苗」というのは、養殖や放流用の稚魚のことを指し、人工的に卵から養殖や放流できるサイズまで育てることを「種苗生産」といいます。

種苗生産施設では、成熟した親アワビから採卵し、幼生管理、初期稚貝育成、中間育成を経て、採卵から1～2年後に30mmの放流用種苗を10万個生産します。

### ① 親貝採集・飼育

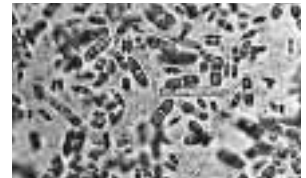
5月～6月にかけて親貝の採集を行います。採取したものは、ワカメやアオサなどの生海藻を与え、水温を自然水温と同調させ、ストレスなどを与えないようにできるだけ静かな環境で飼育を行います。



▲親貝

### ② 珪藻培養(波板仕立て)

8月ごろからアワビ稚貝に食べさせる珪藻の培養を開始します。自然に繁茂した深層水由来の珪藻を、週に1回のペースで真水で洗い流し、不要な珪藻を落とします。この作業を採卵直前まで続けることで、真水で流しても落ちない珪藻が出てくるので、これを稚貝のえさとして与えます。



▲えさとなる珪藻

### ③ 採卵

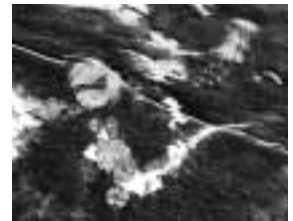
10月ごろから親貝の生殖腺も成熟するので採卵を行います。生殖腺はオスが白色でメスが緑色をしています。アワビを産卵・放精させるため、乾出・温度変化・光量制限などの刺激を与えます。



▲メスの採卵の様子

### ④ 幼生収容・採苗

産卵した卵を専用の水槽に移し、ふ化・発生させます。12回の形態変化後、足が形成されはうようになった段階で、波板に付ける採苗を行います。1水槽(10t)当たり、約230万個を収容します。



▲水槽をほう稚貝(8mm程度)

### ⑤ はく離

稚貝が10mm程度に達した段階ではく離を行い、人工飼料に切り替えます。今回は初年度なので、成長の早さ、生存率、稚貝の活発さ等を比較するため旧式シェルターと新式シェルターの2つに分けて飼育を行いました。



▲新型 スリット型シェルター



▲旧型 かご型シェルター

### ⑥ 現状と2年目採卵

平成17年9月末現在、種苗生産施設では、クロアワビ稚貝を約31千個体収容しています。サイズは、平均殻長が約24mmと通常の表層水での飼育より3～4か月早い成長を見せています。月の成長が2mm程度あることから、放流時期(平成18年4月)では、40mm程度にまで成長する可能性があり、今後の成長を見つめながら飼育・観察を続けて行きます。

また、10月には、2年目採卵が予定されており、現在準備を整えているところです。



▲稚貝(殻長約24mm)

